

特集：東日本大震災後の継続した取り組み

震災から3年が経過

akebonoは社員が安心して働き続けるための取り組みとともに、震災復興支援の継続と災害に強い企業への体質強化に努めています。

福島製造(株)：安心して働ける環境づくりの継続

■放射能測定の実施

東日本大震災で被害を受けた建屋や設備での復旧工事や地震対策はほぼ完了しました。福島第一原発から直線距離で約65kmに位置する福島製造(株)では、社員の安全には最大の注意を払い、社員が安心して働き続けるための取り組みとして、敷地内および工場内の放射能測定を8カ所で毎日実施しています。また、全社員が測定値を確認できるように毎日掲示板にて公開しています。



毎日8カ所で放射能測定

■「除染」自治体と連携

放射能が健康に及ぼす影響を低減するため汚染された土や草木を取り除く「汚染状況重点調査地域」に指定されている自治体では、除染計画を策定し仮置き場の確保も含め、条件が整ったところから順次除染活動を進めています。福島製造(株)がある桑折町では、住宅除去土壌の仮置き場の確保が難しい状況にあります。そこで福島製造(株)では桑折町と連携して、地域住宅の除去土壌を敷地内に置く仮置き場の計画を進めています。また、敷地内には働きながら大学に通い保育士の資格をめざす学生寮があるため、学生の安全性を考慮し、同様に桑折町と連携して敷地内除染の計画を進めています。

地震想定シミュレーションの実施

10月1日、akebonoでは15時15分発生の関東平野北西縁断層帯を震源とするマグニチュード8.1の大地震を想定した第7回地震想定シミュレーションを実施しました。国内各拠点が参加する危機管理シミュレーションで、関東の広い範囲で震度5～7の強い揺れに見舞われ、岩槻製造(株)：震度6強、本社(羽生)：震度6弱、館林製造所：震度6弱、本店(東京都中央区)：5弱の揺れを想定し、岩槻製造(株)を中心に各拠点でケガ人の発生、建屋と設備の破損、稼働・出荷・納入停止、帰宅困難者多数という同時被災を想定しました。前回の課題であった対策本部や各拠点で被災・対応状況が把握しにくい、という点を反映させ、国内各拠点をテレビ会議で接続し、情報



情報の共有化を図ったシミュレーション

の共有化を図ながら、より実践的なシミュレーションを実施しました。

「防災センター」の機能を備える研修施設 Ai-Village

各国の社員の知識・経験を共有し、人財が交流することによって新たな価値を創造するための場として設置したAi-Village(埼玉県羽生市)は、大・中・小の研修室や語学専用研修室、食文化を通じて文化の違いを体験するための厨房機能、コミュニケーションを活性化するためのラウンジのある研修棟と56部屋のある宿泊棟で構成されています。

東日本大震災の教訓から、Ai-Villageは、施設耐震強度を基準の1.5倍にし、停電時の電力供給システムを保有、備蓄庫の設置、テレビ会議システム常態接続による国内外拠点との情報共有、研修室を宿泊室として約200名の宿泊が可能となるなど、万一のとき、「防災センター」としての機能も充実



Ai-Villageの備蓄庫
(毛布、飲料水、緊急トイレなどを備蓄)

させました。また、太陽光発電システム、太陽熱温水器、自然採光などを利用し、使用電力量を極力少なくする省エネルギー施設としています。

震災復旧からの拡充「新生Ai-Ring」

福島県いわき市にあるテストコース「Ai-Ring」は、東日本大震災により大きな被害を受けた高速周回路などは一次復旧工事が完了し、さらに新製品開発に必要なワインディング路や総合試験路、悪路試験路などのさまざまなテストコースの拡充とダイナモ実験設備(ブレーキ試験機)の増設を行います。今回、ふくしま産業復興企業立地補助金対象事業(第5次募集)に採択され、地域貢献とともに新規地元雇用も20名を予定しています。完工は2016年3月の予定で、将来を見据え、Ai-Ringのあるべき姿を追求しつつ、新製品、新技術を確認し、中長期的な技術の変化にも対応できるフレキシブルな評価を可能にします。

Ai-Ring安全祈願祭の様子



震災復興支援「LFA試乗体験」イベントへの協力継続

東日本大震災で被災した福島の若者たちに夢と希望を持ってほしいという趣旨のもと、福島県いわき市の東洋システム(株)主催、トヨタ自動車(株)とakebonoの協賛により、Ai-Ringでのスーパーカー「LFA」の試乗体験イベントが昨年引き続き、第2回目が6月8日に開催されました。

LFAは、トヨタ自動車の高級車ブランドであるレクサスから世界で500台が限定販売されたスーパーカーで、そのうち

の6台がAi-Ringに集結しました。当日は、招待した福島県内の中学生から大学生までの135名が、プロドライバーが運転するLFAの助手席に乗り、高速周回路走行などを体感しました。またakebonoは、このイベントにブレーキ技術教育巡回



ずらりと並んだLFA試乗車

車両を派遣し、ブレーキの講習会を行いました。この震災復興支援「LFA試乗体験」は今後も継続協力していきます。

リスクを踏まえた経営課題

akebonoは、東日本大震災で顕在化した課題に継続して取り組み、さらに災害に強い企業への強化行動計画に着手して

リスクを踏まえた経営課題

経営課題	内容
事業継続計画(BCP)の策定	<ul style="list-style-type: none"> ◆お客様のBCP取り組み・要求事項の把握 ◆BCP基本方針の策定 ◆主要製品についての復旧・代替生産策の検討 ◆設備耐震化などの対策実施 ◆BCPの文書化、定着化(教育・訓練)
危機管理体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ◆初動対応・早期復旧への地震シミュレーションの実施 ◆危機管理体制・対応マニュアルの見直し <ul style="list-style-type: none"> ・対象リスクの種類と規模の拡大(地震のみから、気象、交通、事故など、安全と納入へ影響するものを対象とする) ・対策本部の設置基準、運営方法、体制 ・情報の見える化・共有化 ・運営機器の整備
階層別責任と役割の明確化	<ul style="list-style-type: none"> ◆対策本部の規模と対応の見直し ◆緊急時に必要なアウトプット(安否、出荷状況、復旧予測等)と担当の明確化
社員・勤務状況の見える化	<ul style="list-style-type: none"> ◆社員の見える化(出欠勤、出張):各個人の安否確認把握 ◆常に最新情報をアップデートする仕組みと共有方法

います。大規模地震、洪水などの自然災害や強毒性インフルエンザ等による事業中断に備え、また、お客様のサプライチェーンリスクへの関心が年々高まっている中、事業継続計画(BCP)への対応は非常に重要な経営課題と位置づけています。内閣府や一般社団法人自動車部品工業会(JAPIA)のガイドラインを参考に、国内外の拠点やサプライヤー(お取引先様)のBCP策定へ向け、ステップを踏んで取り組んでいます。

2013年度からは、リスク評価委員会の傘下に組織横断的なチーム(名称:BCM対策部会)を設け、震度6強の大地震を想定したBCP策定に取り組んでいます。特に、早期復旧・事業継続対応を重点テーマとして、「30日以内の復旧」をめざす設備の耐震強化対策への取り組み、代替生産性の分析・確認、サプライチェーンおよび情報システムのリスク分析と対策検討、改善を踏まえた地震想定シミュレーションを実施しました。

経営課題	内容
情報迅速化	<ul style="list-style-type: none"> ◆お客様情報だけでなく社内外情報を収集し、中長期での受注動向を方向づける ◆外部ソース(経済産業省/JAPIAほか)の情報収集 ◆情報統制と共有化 ※拠点とは機能別に責任者を決め情報のやりとり
調達政策	<ul style="list-style-type: none"> ◆グローバルレベルでのサプライチェーン情報の収集、リスク調査と対策検討、部品や材料の互換性確認、情報を一元管理するためのシステムづくり ◆互換性を難しくする要因でもある特殊な材料や仕様の「造りやすいもの」「仕様の共通化・標準化」 ◆GPF(グローバルプラットフォーム)ビジネスでの部品や材料の共通化推進、部品や材料の現地調達化推進
生産体制再構築	<ul style="list-style-type: none"> ◆グローバル生産体制の再構築(拠点/製品の極集中回避) ◆代替生産性の把握と向上 ◆C&S+tの推進(設備の汎用性の拡大による、相互生産)
ファシリティ見直し・強化	<ul style="list-style-type: none"> ◆耐震補強強化の継続 ◆Ai-Villageへ対策本部のバックアップ機能、避難所・宿泊所 ◆生産拠点・非常用電源の完備 ◆衛星電話の更新

TOPICS

あの日から3年「生きていてよかった」涙の卒業

■震災を乗り越えて迎えた卒業

青空が広がった清々しい3月15日、福島製造(株)の第41期保寿生15名の福島学院大学(短期大学部)卒業式が行われました。卒業式に続き、akebono主催の「卒業を祝う会」が開催され、卒業生とご家族も出席し、卒業生一人ひとりに社長の信元から記念品の贈呈と固い握手で、卒業生の門出をお祝いしました。

この41期保寿生は、新入社員として普通のスタートはできませんでした。配属翌日に東日本大震災に見舞われ、余震の続く不安な毎日の中、停電・断水などにより寮では生活できず、避難所生活を余儀なくされま



震災を乗り越えて迎えた卒業

した。また、工場の浄化槽損傷により食洗ができなかった1カ月間、寮生による「おにぎり握り隊」が毎日早起きして、社員の朝食用に約350個のおにぎりを作り、復旧・復興に大いに貢献しました。学校も被害を受けたため、仮設校舎での授業が続きましたが、明るく笑顔を絶やさず、それぞれが自分の夢に向かって進み、卒業を迎えました。



卒業生代表の
矢吹 瑠香さん

■卒業生代表「お礼の言葉」

「忘れもしない3月11日の東日本大震災、直後先輩に手を引かれ外に出ました。大きな余震が続く、雪も降り雷もなり、この先どうなるのだろうと不安な思いでいっぱいでした。体育館で寒い中、体を寄せ合い、みんなで励まし合いました。あのときほど、人の温かさを感じたことはありません。日常生活を何気なく送ることができる幸せや、人の存在の大きさにあらためて気づかされました。支援物資もたくさんいただいたことに「One akebono」を感じ、こんなに社員のためにさまざまなことをしてくださる会社に入社することができて幸せだと思いました。今後は学んだことを活かし、それぞれの道を歩いていきます。」

(p.22「就職進学制度」をご覧ください。)